

国における政策評価に関する基本的な方法

事業評価

(対象) 個々の事業や施策

(目的) 事業や施策の採否、選択等に資する情報の提供

政策効果や実施に要する費用を推計・測定し、政策の妥当性、必要性、効率性などの観点から評価

実績評価

(対象) 政策、施策

(目的) 政策の見直しや改善に資する情報の提供

あらかじめ政策効果に着目した達成すべき目標を設定し、これに対する実績を定期的、継続的に測定し、目標の達成度合いについて評価

総合評価

(対象) 制度や法律の改正などを単位とする大きなテーマ

(目的) 政策の決定から一定期間を経過した後を中心に、政策の見直しや改善などの問題点の解決に資する多様な情報の提供

対象とするテーマに係る政策の発言状況を審議会等を活用して様々な角度から掘り下げて分析し、政策に係る問題点を把握するとともにその原因を分析するなど総合的に評価

Ⅱ. 保健活動における評価

☆地域づくりの一環としての評価

☆目的・活動の範囲等が流動的・複雑な活動

保健活動において

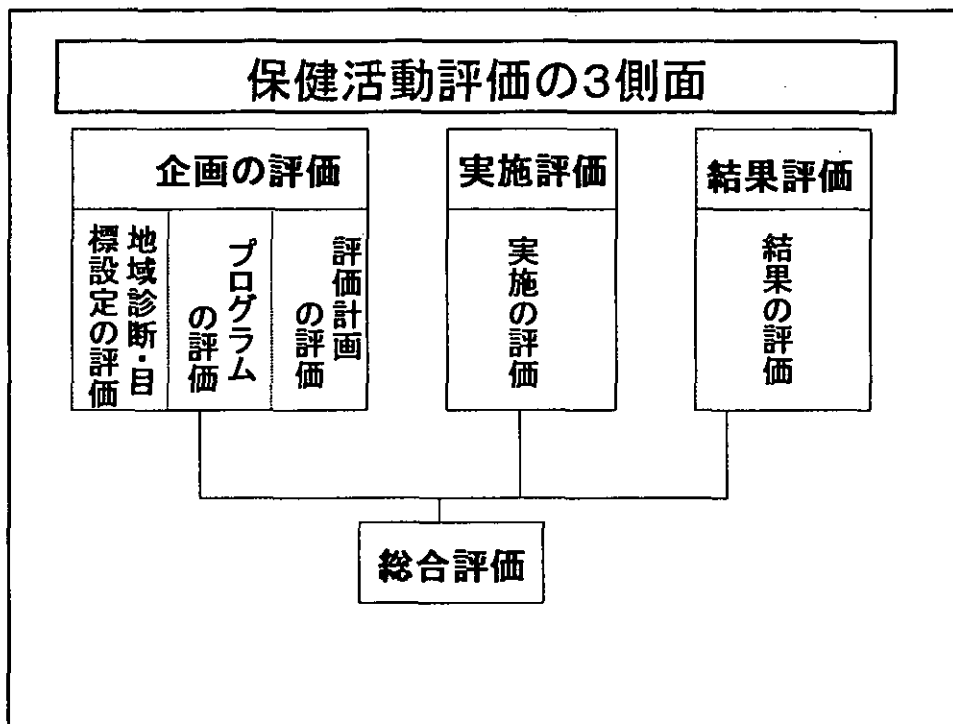
なぜ評価されてこなかったのか

- ・保健活動の介入による健康状態の向上かどうか測りにくい → 要素が複雑なため
- ・実践に役立つ評価指標の開発の遅れ
- ・測定可能な目標値を設定してこなかった
- ・目標が流動的なため

地域保健活動の評価の特徴

行政評価との相違点は？

- ①評価のプロセスの重視
- ②総合的な評価 → 地域全体を視野に
- ③協働性 → 住民、関係者とともに
- ④当事者が主体性
- ⑤評価の視点が効率、効果だけではない
→ QOLなど



- ① 企画の評価**
1. 地域診断と目標設定
 - ・地域特性、健康課題、社会資源や関係機関との連携状況
 - ・課題の優先順位、目標の適切性 など
 2. プログラムの企画
 - ・対象者、プログラム構成、必要な機材、周知方法など
 - ・最終目的と目標の現実性と具体性
 - ・投入された資源(資金、人、場所など)
 3. 評価計画
 - ・評価の観点、評価指標、
 - ・評価方法
 - ・評価計画、評価体制

② 実施の評価

1. 実行段階での諸活動

- ・事業の参加者、従事者数
- ・データの収集方法
- ・目標の達成度 など

2. 事業内容及びプログラム

- ・プログラムの組み立て
- ・実施者の技量 など

3. 関係者の反応

- ・使用教材に対する反応
- ・プログラム参加の程度 など

<従事者側からと参加者側の双方からの評価を>

③ 結果の評価

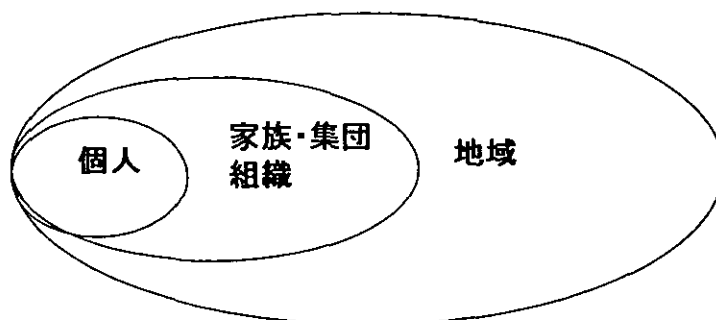
結果の評価は目的、目標に応じて行う！

<評価の例>

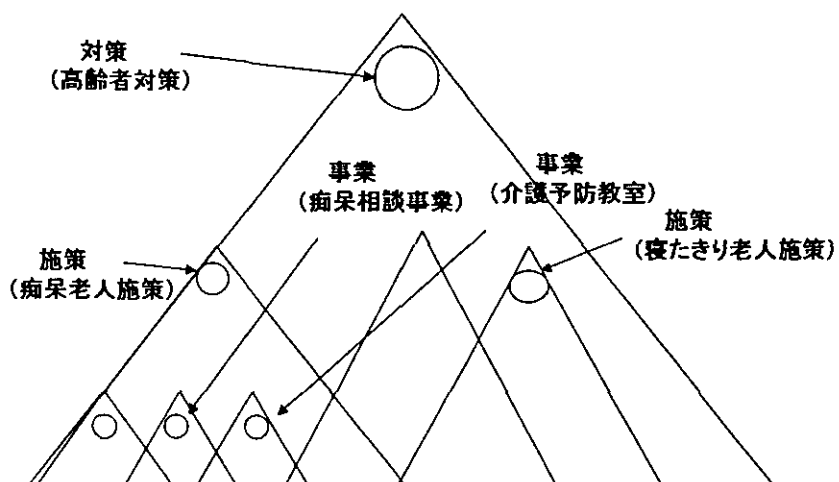
- ・健康についての認知度:知識、態度、動機づけ、技術
- ・ライフスタイルと健康状態:喫煙習慣、食品を選ぶ、身体活動
- ・ヘルスサービス(例、予防接種、各種事業等)へのアクセスがよくなる
- ・住民参加
- ・QOLの向上、社会的な支援ネットワークの形成
- ・健康的な環境:たばこやアルコールの制限
- ・健康の効果:罹患率の減少、健康寿命の延伸、死亡率の減少
- ・健康政策:政策、法律、文化

評価の対象

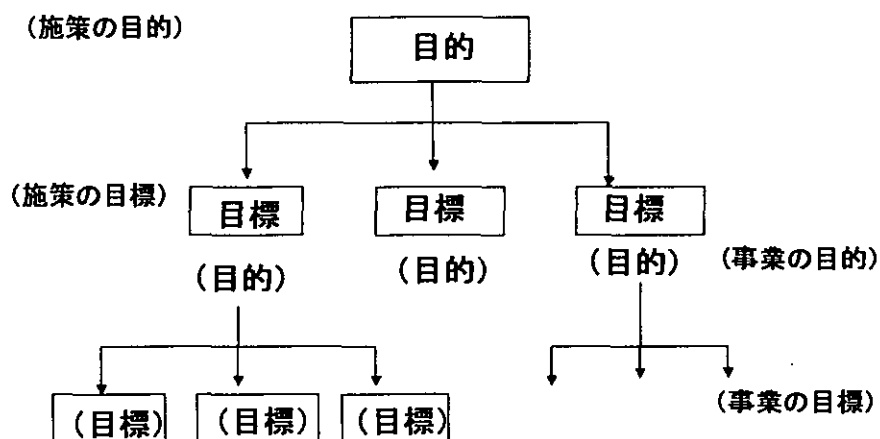
結果の評価は参加した個々の住民だけでなく、家族、関係者、関係機関、地域住民を対象に幅広く行う



対策・施策・事業の関連



目的と目標



評価の流れ

1. 評価することの意志決定
2. 事務局体制; 根回し、コンセンサスづくり、事前学習
3. 評価体制づくり; 評価会議、ワーキンググループ
4. 目標の明確化
5. 評価の観点・評価指標の設定、評価の時期
6. 資料収集、調査計画
7. 結果の検討
8. 評価結果の公表、フィードバック

定量的な評価と定性的な評価

- ・定量的な評価: 数値であらわすもの
 血圧、体重、検査データ
 健康日本21の数値目標など
- ・定性的な評価: ことばや図であらわすもの
 参加者の表情の変化など

評価の観点、指標とは

- ・観点とは
 評価しようとする立場、目のつけどころ
- ・指標とは
 捉えた事象をはかれる形に具体化したもの

評価の方法

- ・アンケート調査
- ・インタビュー(個人、グループ)
- ・観察
- ・記録(会議録、訪問記録など)
- ・実態(会議の開催状況、連携の状況など)
- ・健診等の各種検査データ
- ・人口動態統計・各統計資料

など

評価における住民参加

- ・評価の企画の段階からの参加
- ・団体代表から一般市民、当事者等の幅広い参加へ
- ・活動の目的、目標の共有化
- ・陳情型から協働型へ
- ・行政のすべきことと市民ができることの明確化

参考文献

1. 事例から学ぶ保健活動の評価、平野かよ子編、医学書院、2001.
2. 行政評価の世界標準モデル、上山信一監修、東京法令出版、2001.
3. 行政評価のツボ、新世紀自治研究会、ぎょうせい、2000.
4. 行政評価、島田晴雄・三菱総合研究所著、東洋経済新報社、1999.
5. 健康教育・ヘルスプロモーションの評価、武藤孝司・福渡靖、篠原出版、平成6年.
6. 行政経営の基礎知識50、大住荘四郎編著、東京法令出版、平成13年.
7. Howe, Degeling, Hall, 鳩野洋子, 曾根智史訳、ヘルスプロモーションの評価 成果につながる5つのステップ、医学書院、2003 (6月21日発売)

Ⅲ. 評価演習

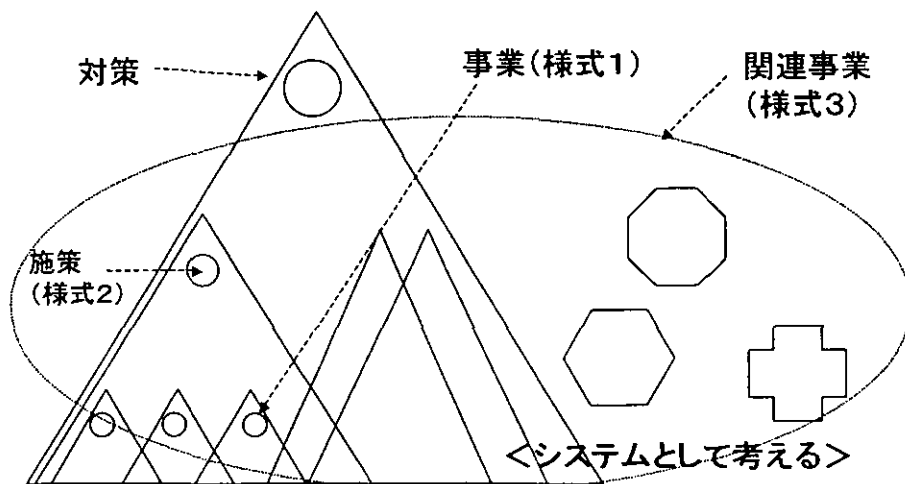
目的: 活動・事業の評価を実践し、新たな活動・評価を行うための評価の視点と力量を形成する。

- ・ 目標、目的を明らかにしましょう
- ・ 鳥瞰的に眺めてみましょう
- ・ 何のための評価活動かを考えてみましょう

この枠組みは……

- 線で囲まれているだけで何ら新たな理論でも何でもありません。
→ 現行にとらわれないための手段です。
- 目的、目標を明らかにし、評価指標を検討するためのツールです。
→ 目的・目標が明らかにならない限り、事業・活動評価はできません。
→ 自分は何がしたいのか、それはニーズと専門的判断に基づいていることかを明らかにすることです。

評価枠組みの構造 (様式1～3)



活動・事業評価表記入上の留意点

- 1) 簡潔に表現する
 - ・箇条書き
 - ・具体的に表現する
 - ・優先度の高いものから
- 2) 評価を示す相手が理解できる用語で表現する
 - ・専門用語は解説する
- 3) 目標を明確にする
 - ・事象（対象者、家族、システム、環境など）の姿で表現する（どうなったらいいのか）

研究成果の刊行に関する一覧

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
島田美喜	保健福祉従事者を対象とした評価研修	平野かよ子	地域特性に応じた保健活動	ライフ・サイエンス・センター	横浜市	2004	183-188
守田孝恵	保健所の市町村支援に位置づけた評価研修	平野かよ子	地域特性に応じた保健活動	ライフ・サイエンス・センター	横浜市	2004	188-194

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
島田美喜, 鳩野洋子, 眞崎直子	保健事業評価に関する研究—保健所企画調整機能および市町村支援機能の視点から	日本公衆衛生雑誌	50(10) 特別附録	398	2003